

隣の由木まで歴史お散歩

永林寺

八王子市(旧由木村)

室町から戦国期にかけて八王子を中心とした多摩地方は武蔵由井郷と呼ばれそこを支配していたのが大石家です。
永林寺（えいりんじ）は、天文元(1532)年、大石家によって創建されました。

場所：

私たちが住む北野台は昭和30年までは由井村で、その隣、東南側が由木村です。



大石氏と永林寺

大石氏はその時代とともに、今の八王子市からあきる野市にかけていくつかの居城（居館）を持っていて、そのひとつが由木城です。永林寺はその中に大石家によって創建されたものです。

当初、永麟寺と記していましたが、江戸期になり徳川家康公が巡拝された折に指示を受け、永麟寺の麟の文字を林に変え、現在の永林寺の寺名となりました（麟とは麒麟のこと）。

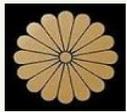
大石氏と小田原北条

大石家は機を見るに敏なようで、あるできごと（河越合戦：1546年）を機に小田原北条に従属します。

そののち、大石定綱周（つなちか：定久は通説）は小田原北条から藤菊丸（のちの北条氏照）を養子として迎入れます（養子入り先は八王子市下恩方の浄福寺城）。

また、天正十五(1587)年、後陽成天皇より勅願寺の綸旨を受けていることなど、永林寺は多方面にゆかりを持つ寺院です。

そのようなことから寺院内には各氏の家紋が随所にちりばめられており、それを探し当てるのも楽しい歴史探訪になります。



天皇家ご家紋



小田原北条 三ツ鱗



徳川家 三つ葉葵



豊臣家 五七の桐



大石家 丸に三ツ星

永林寺 総門：

永林寺正面の総門です。
 ここは金峰山永林寺と号される
 ことから右のように「金峰山」と
 表記されています。
 入山の一步はここからです。



永林寺

三門：

永林寺の三門です。
一般的に山門とも書きます。

天文十五(1546)年
建立、その後焼失し、
現在のものは江戸初
期(1669年)に再建したものです。



その後、2回の解体・改修を経て現在に至っています。
左右内部に仁王像(阿吽像)が安置されています。

仁王像(阿吽像)：

仁王像(阿吽像)は左側(向
かって右側・東側)には阿形
像、右側(向かって左側・西
側)には吽形像を安置するの
が一般的です。
ここでもそれにならって左右に
安置されています。



吽形(うんぎょう)像



阿形(あぎょう)像

永林寺

本堂：

山門を通り、続く中雀門を通して本堂に対峙したのが右の写真です。

門の左右、扉に天皇家の菊のご紋があります。



また本堂の屋根の破風鬼飾りなどには小田原北条の三ツ鱗家紋があしらわれています。

三重塔：

本堂の西側に三重の塔があります。

これは昭和五十五(1980)年に建立されたものです。

